

【報告・紹介】

起業という進路

——パソコンを教えることを通して大学生と地域住民の世代間交流

NPO 法人 TRYWARP 代表理事
虎岩 雅明

1. はじめに

「大学を卒業して就職せずに自分の力で生きていきたい」。この強い思いが、千葉大学在学中に TRYWARP を立ち上げたもっとも大きな原動力でした。

組織を作るに当たってまず、「自分の身の回りの方に貢献できることはないだろうか。私だけでなく組織として大学生が力になれることは何だろう」と考えました。一方、大学時代、イベントの企画などで商店街の方々からお世話になる機会が多くあった私は、道を歩いていてちょっとした挨拶を交わすのが日常的になっていました。一人暮らしをしていて、この暖かさは特別なものでした。「この暖かさをもっと多くの大学生に広めたい」という想いも心のどこかにいつもありました。そうして生まれた TRYWARP は、大学生がパソコンを教えることを通して、世代を超えた交流のきっかけ作りを目指しています。

今年の4月で大学院を修了して3年目を迎えました。学生時代は、学業と両立しながらの活動でしたが、卒業後、毎日真剣にNPOの事業に取り組むようになって事業規模もどんどん大きくなっています。オフィスも2度目の移転を終え、常勤スタッフも毎日5～8名います。アルバイト登録してくれている千葉大生も100人を超えました。

この活動を全国的に広めるという夢を実現させることと、「生きていく」ということが完全に一致しているので、とても充実した毎日を過ごしています。

2. 大学卒業後、就職せずに起業するという決断

起業するということに初めて興味を持ったのは、高校時代でした。当時 Windows95 が発売され、NHK スペシャルという番組で Microsoft 社を創業したビルゲイツの下キュメンタリーが放送されていました。サラリーマンの家庭で育った私は、当然のことのように大学に入って就職するものだと自分の中でも何となく決めていました。しかし、番組で描かれていたビルゲイツは、大学時代、自分のアイデアで生み出したソフトウェアをお金に換え、世の中に便利なものを提供していったのです。単純にビルゲイツを目指しているわけではありませんが、「起業」という生き方に憧れを持った一番最初のきっかけだったのは確かです。

起業したいと思った気持ちは単なる憧れにすぎず、大学3年生、大学院1年生の時には普通に就職活動をしました。就職活動が続けるにつれ、自分が将来起業するために必要な経験ができるような就職先を探していることに気づきました。一方で、就職活動の帰りがけには必ずと言っていいほど学生向けの起業セミナーに参加し、ベンチャー企業の社長さんの講演を聞きに行っていました。そして、必ずといっていいほど起業セミナーで質問していたことがあります。それは、「大学時代に起業した方がいいですか？それとも、一度会社に就職してから起業した方がいいですか？」という内容です。答えは決まっていました。就職してから起業した社長さんは、今の自分があるのはサラリーマン時代の経験や人脈のおかげだから、起業するなら就職してからの方がいいとアドバイスをくださいました。学生時代に起業した社長さんは、全くその逆で、3年間サラリーマンをする時間があるなら、今すぐにでも初めて、3年間社長を経験した方がよっぽど有意義だとアドバイスをくださいました。皆、自分の選択が正しいと信じていたのです。このとき気づいたのが、自分の選択は自分が自分自身の手で正解にしていくしかないということです。最終的には、やって後悔するのか、やらないで後悔するのかわかったらやって後悔した方がよいと思い、在学中に起業するという決断に至りました。

3. まちの「こんにちは」を目指して

極端に言うと、都会に住む現代人は、隣に住んでいる人との交流すらなく、自分が住む地域で人とのつながりを持つ機会が非常に少ない時代です。しかし、地方の小さな町のように、近所の人のことは皆がなんでも知っている状態もすべての人に好まれるわけではありません。地域のコミュニケーションを活発化させるために、地域交流イベントを開催しても、自ら参加する人は積極的に交流を望んでいる人ばかりなので、意識がそこまで高くない人の生活は何も変わりません。

そこで、TRYWARP では、「交流」を目的にした活動をするのではなく、パソコンを教える（もしくは習う）ことを通して自然と交流が生まれるきっかけ作りを目指しています。これは、あくまできっかけ作りであって、どこまで仲良くなるかは当人同士の関係次第なのです。これ以上でも以下でもない関係を作っておくことは現代社会においてとても意味のあることだと思っています。この関係を言葉に表すなら、まちで出会ったときに「こんにちは」といえる関係なのではないかと考えています。「こんにちは」と挨拶をする人が多くいるまちでは、ポイ捨てなどはできません。自然とマナーやモラルが向上し、住みやすいまちになるはずです。

千葉大学には、一人暮らしをしている学生が多くいます。キャンパスに通うだけの4年間ではなく、いろいろな世代の人たちと触れあい、いろいろな価値観に出会う4年間を送ってもらいたいと思っています。また、設立当時、千葉市の公民館を周り、200人近い方ひとりひとりにインタビューを行い、お話を伺いました。地域に住む人々は、折角、大学のあるまちに住んでいるにもかかわらず、大学の中に入ったことすらなく、大学生と話したことすらない方が多くいらっしゃいます。大学や大学生との交流を求めている人が多いのも現状です。

「地域交流」という言葉がよくもてはやされますが、「交流」という表現が使われているうちはまだまだそれぞれの領域に垣根があるのだと想います。「交流」するのではなく、大学生も大学も地域の一員だと認識ときに初めて「地域交流」という言葉が目指していたものが実現できるのではないのでしょうか。

TRYWARP にできるのはきっかけ作りだけですが、ひとつの暖かい地域作りを意識しながらパソコンを教えています。まちの「こんにちは」が少しでも広がれば素敵ですよ。

4. 地域化する IT

様々な情報発信にインターネットが活用される時代になりました。パソコンの普及により、ますますインターネットを使って情報収集をする人が増えてきます。情報収集だけでなく、個々の情報発信も活発に行われるようになってきます。中央で発信された情報を収集する時代から、IT の利用が地域内での情報の受発信に活用される時代なのです。つまり、地域を IT 化させる時代から、IT が地域化する時代なのです。TRYWARP では、どんな人でも情報を発信し、伝えることができるよう、「あみっぴい」という SNS を西千葉エリアで提供しています。

5. パソコンを使わざるを得ない人たち

これまでは、パソコンを使いたくて使う人たちが大半を占めていました。何かを作ったり仕事で使ったりする人たちです。こういった人たちは、ある程度のパソコン用語を理解できるので、メーカーの電話サポートでそこまで不便を感じることはなかったようです。しかし、息子娘夫婦がデジカメで撮影した孫の写真を見るために、どうしてもパソコンが必要になり購入するような人たちが増えてきています。メーカーの電話サポートなどで、クリックの説明から始めなければならない場合が少なくない時代です。こういった状況で、電話だけでは、十分なサービスをパソコン購入者に提供することはできません。パソコンを超基本から習いたいという需要は、ますます拡大しています。身近で安心してパソコンのことを相談できる存在を TRYWARP は目指しています。

6. パソコンプレックス解消大作戦

パソコンに対して根柢のない苦手意識をもつことをパソコンプレックスと呼



写真1
パソコン講習会の
ようす（筆者撮影）



写真2
パソコン相談会の
ようす（筆者撮影）

んでいます。TRYWARPの使命はこのパソコンブックスを解消することです。多くの家庭では、夫婦で解決したり、親子で解決したりしようと試みるようですが、親しい間柄だとどうしても、もめ事の原因となるようです。「教え方が悪い」「さっきも説明したよ」等々、教える方も教わる方もどうしても遠慮がなくなってしまうようです。

TRYWARPでは、大学生スタッフが親身になって教えています。自分の子供と同じくらいの世代から習うのですが、お互いある程度の遠慮が生まれるため、「ちゃんと覚えよう」「ちゃんと説明してあげよう」と他人同士だからこそ健全な関係が築けています。「聞き分けの良い息子娘」のような存在を目指しています。

スタッフである大学生は、自分のやったことが今までにないくらいに感謝されるので、とてもやりがいを持ってパソコンを教えます。普通だと、自分と世代の違う人と対等に話をする機会があるのは、もしかしたら就職活動の面接官が初めてなのかもしれません。若いときからいろいろな世代の人と接し、いろいろな価

値観に触れた方がより豊かな人生を送ることができるはずです。パソコンを習いに来る生徒さんも、若者との交流からエネルギーをもらっているようです。

TRYWARPでは、「千葉大パソコンサポーターズ」と称して、(1)パソコン講習会の開催、(2)パソコン出張サポートの実施、(3)パソコン購入ツアーの開催、(4)パソコンなんでも相談会の開催をしています。パソコンのスイッチの入れ方から習い始めて3ヶ月でパソコンをマスターできるようになる「超入門コース」が大好評です。パソコン出張サポートでは、パソコン購入直後の初期設定や、インターネットへの接続設定が大人気です。パソコン購入ツアーというちょっと変わった企画もあります。電器店で店員さんに言われるがままに購入してしまうのが心配な方のために、大学生が電器店にご一緒するのです。

パソコンを習っても、すぐに使わなくなってしまう方も少なくありません。そういった人たちができるだけ自然にパソコンを使うようになるために、西千葉 SNS「あみっぴい」を運営しています。パソコン教室で仲良くなった人たちと長い間親しくするきっかけになったり、先生である学生スタッフとの交流の場になっています。

7. 資本金0円からのスタートと地域通貨「ピーナッツ」

大学卒業後の進路として起業という選択をした当時の私は、お金がないと社会に出ることができないということにもものすごく抵抗を感じていました。今思えばそこまで意固地になる必要もなかったような気がしますが、当時、貯金も一切使わず0円からTRYWARPをスタートさせたのです。千葉にある会社の社長さんたちと突然アポイントをお願いし、挨拶回りに行きました。そのときご厚意で頂いた事務所の机やイス、パソコン等を最初は使っていました。

何よりも感謝しているのは、事務所となるスペースを無料で貸してくださった商店街の会長さんの存在です。これがなければTRYWARPは始まっていなかったかもしれません。家賃を地域通貨「ピーナッツ」を利用することで事務所を貸して頂きました。ピーナッツは、商店街のお祭り準備などを手伝うこと

により手に入れることで循環させました。地域通貨のおかげで家賃を払うことに追われないため、大きな市場競争力を得ることができたのです。これがきっかけになって、地域通貨のIT決済システムの開発を手がけたり、千葉県の地域通貨普及実証実験事業を受託することにもなりました。

8. Let's Try Warp !!

挑戦(Try)しなければ、飛躍的な変化(Warp)は起こらないという意味を込めて名付けられたTRYWARPは、全国展開を目指して活動しています。全国一律のサービスとしての展開ではなく、大学周辺エリアを中心とした展開を考えています。これから、高齢社会を迎えるに当たって大学生が何かを提供するという価値は相対的に高くなっていきます。西千葉という小さいエリアでのモデルケースを全国の大学周辺に広げることで、「大学の近くに住んでいるからパソコンのことは困らない」という会話が生まれるような地域作りを目指していきたいと考えています。

大学を卒業したら就職をすることが当たり前の世の中ですが、これからの時代はもっといろいろな進路があるはずです。就職活動の文化もリクルート社が創り上げただけのものにすぎない気がします。起業するとまではいかなくても自分の力を活かして生きていく方法は、この豊かな日本には無数にあるのではないのでしょうか。「やりたいこと」探しに時間をかける大学生が多いですが、まず一步を踏み出さない限りはやりたいことだと実感できる日はこないと思います。頭で考える時間を長く作るよりも、日々、五感を使って何かと向き合ってみてはいかがでしょうか。

* NPO 法人 TRYWARP 連絡先

〒260-0044 千葉市中央区松波 2-18-8 新葉ビル 2F

TEL 043-207-1040 FAX 043-306-3489

HP: <http://trywarp.com/>

(とらいわ・まさあき)

(2007年4月24日受理)